

令和7年度 5歳児健康診査事業〈モデル実施〉について

1. 概要・目的

幼児期は、言語の理解能力や社会性が高まる時期であり、個人の成長や発達を診察するだけでなく、集団における立ち振る舞いを評価し、個々の発達特性を早期に発見する大切な時期である。区は、3歳児健診までに発達相談につなげる体制を整備してきたが、円滑な就学につなげるため、就学時健診より早期に気づく機会が必要であり、5歳児健康診査を実施する。

2. 対象者

モデル園に選定された園の今年度5歳になる4歳児（年中）クラスの児童
※12園、250人～300人程度を予定、モデル園は今後決定。

3. 手法

- ① 保護者による電子アンケート（「ここあぼ」というアプリケーションを活用）
- ② 園での心理職による集団観察による評価
- ③ ①と②の結果に基づき、集団健診の対象となる児童の選定
- ④ 保健センターで集団健診を実施、必要な支援等紹介
- ⑤ 健診後カンファレンス、必要応じ、保育園、幼稚園、教育総合支援センター、発達相談室等へつなげる

4. スケジュールの見込み

5月～6月：モデル園への説明、対象保護者あて事業周知、
健診に向けた医師会との協議
7月～10月：保護者アンケート、園での集団観察による評価実施、
健診対象児童の選定、集団健診の準備
11月～3月：集団健診、健診後フォロー
通年を通して：次年度以降に向けた事業検証